



婦防みやぎ

『第32回宮城県婦人防火クラブリーダー研修会』開催

平成26年9月5日(木), 宮城県庁講堂において, 県内各地区のリーダー約370名の参加により開催しました。

冒頭には, 県知事表彰伝達が行われ「婦人防火クラブ員永年功労表彰」では, 長年に渡る功績を讃えて5名のクラブ員に, 「無火災地域推進功労表彰」では, 前年の建物火災発生率が1.0未満であった5つの市町村単位のクラブと同市町村にある幼少年消防クラブが表彰されました。特に, 幼少年クラブ表彰では, 代表児童による「ぼうかのちかい」が行われ, そのご褒美として「むすび丸」から, むいぐるみが手渡されるなど, そのかわいらしい様子に参加者の多くが, 目を細めておられました。



意見発表では, 3地区の代表者から各地区での活動の紹介等をいただきました。

仙台市宮城野地区からは「繋ごう未来へ 届け世界へ 震災からのメッセージ」と題して, 震災体験文集の作成と, それを伝承するための朗読会を開催したこと等について, 岩沼市からは「応急仮設住宅への防火の取り組み」と題して, 市内仮設住宅の無火災祈念のため, 折り紙で「火事なし法被」を作り, すべての仮設世帯へ配布したこと等について, 加美町からは「加美町婦人防火クラブの活動状況」と題して, クラブ員の防火・防災知識



の向上のため, 講習会に力を入れていること等について, それぞれ力が入った紹介がありました。

また, 東京で開催された幹部研修会の参加者からは, 研修で行われた避難所運営ゲーム「HUG(ハグ)」について紹介され, 例えば200人の避難者がいるときに全員分の支援物資がないときは, 平等に配れないので, それは配るのをやめるという「負の平等」について, 震災当時のことも思い出しながら, 改めて考えさせられる良い機会となりました。

講演は, 南三陸ホテル観洋 女将 阿部憲子氏を講師に招き「東日本大震災から復興へ～千年に一度の災害は千年に一度の学びの場～」と題してお話いただきました。

大津波により壊滅的な被害を受けた南三陸町にあって, 被害が少なかったこのホテルには, 難を逃れた地域住民が次々に避難されました。しかし, 交通やライフラインの寸断で孤立状態に。宿泊客や従業員の安全安心の確保もできない状況で押し寄せる, 課題や問題の解決に向け奔走する阿部女将のお話に, 参加者一同, 真剣に聞き入り, さらに, 自分達の震災の記憶とあいまって, すずり泣く方も大勢おられました。



最後は, 「自分達の地域から火災を出さない 自分達の地域は自分達で守る」という防火宣言を全員で唱和。防火・防災を改めて誓い合い, リーダー研修会を終了しました。

～ 自分達の地域から火災を出さない 自分達の地域は自分達で守る ～

宮城県婦人防火クラブ連絡協議会

事務局

〒980-8570 仙台市青葉区本町3-8-1

宮城県総務部消防課内 (宮城県庁5階)

TEL 022(211)2374 FAX 022(211)2398

あいさつ

宮城県婦人防火クラブ連絡協議会

会 長 後 藤 重 子



余寒厳しき折柄、皆様如何お過ごしですか。

未曾有の東日本大震災から丸四年を迎えようとしております。

被災地では、様々な形での復興支援が続いておりますが、被災者に笑顔の戻る日まで、しっかりと続けていくことを願ってやみません。

また、東日本大震災にて得た教訓をもとに、各地域において自主防災組織が立ち上がり、きめ細かに様々な訓練が行われております。子供達も進んで防災訓練に参加し、自分達の出来ることを成し遂げようと頑張っている姿を見ると、微笑ましく思うとともに、頼もしさも感じております。

昨年は、御嶽山の噴火、広島県の土砂災害、徳島県の大雪による地域孤立など多くの自然災害が続きました。いつ起きるかわからない自然災害を防ぐことはできませんが日頃の防災への取り組みを怠らないことで「減災」はできると考えます。

私達婦人防火クラブ員は「自分達の地域から火災を出さない」「自分達の地域は自分達で守る」というスローガンの下、防火防災活動を続けていくことで地域に根ざした防火クラブになるのではないかと思います。

今後とも、皆様の御協力をよろしく願いいたしますとともに、ますますの御活躍と御健勝を祈念いたしまして挨拶いたします。

宮城県婦人防火クラブ連絡協議会役員名簿 (平成27年1月1日現在)

役 職	氏 名	地 区 名
会 長	後 藤 重 子	塩 釜
副会長	八 木 弥 生	仙 台 宮 城
〃	櫻 井 よしみ	岩 沼
〃	佐々木 文子	大 崎
理 事	穀 田 梅 子	仙 台 青 葉
〃	菅 原 政 子	仙 台 宮 城 野
〃	山 田 はるみ	仙 台 若 林
〃	高 橋 理 恵	仙 台 太 白
〃	今 野 なみい	仙 台 泉
〃	高 橋 則 子	名 取

役 職	氏 名	地 区 名
理 事	佐 藤 千 賀 子	登 米
〃	及 川 サチコ	栗 原
〃	松 崎 明 子	黒 川
〃	亀 山 いつ子	石 巻
〃	菅 生 和 子	亶 理
〃	青 木 孝 子	仙 南
〃	及 川 秀 子	気仙沼・本吉
監 事	氏 家 ふみ子	栗 原
〃	田 所 かつ子	亶 理

広告

災害対策用備蓄品 しのげール

いざという時の必須アイテムを
A4 ボックスにセット



賞味期限
水・食料
5年間

□箱サイズ:W235×D105×H305mm □重量:約4.2kg □内容物:保存水3本、アルファ米3食、
リソット・ミニ3食、エマーゼンシークッキー3袋、レスキューシート1個、トイレパック(5回分)3セット

NOHMI 能美防災株式会社
東北支社：〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-20

女性ならではの 大いなる活躍を期待します!

宮城県知事 村 井 嘉 浩



婦防みやぎ第34号の発行、誠におめでとうございます。

皆様方には、日頃から、仕事や家事などのやりくりをしながら、家庭や地域の防火・防災の推進に御尽力をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

平成25年12月に施行された「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」には、法律として初めて「婦人防火クラブ」が明記され、国・県・市町村はそれぞれの立場で必要な支援をすることとされました。これは皆様が、女性ならではの視点で、家族を、地域を想い、約半世紀にわたり世代を超えて積み重ねてきた活動が高く評価された賜であると確信しており

ます。県といたしましても、法律の趣旨に沿って、皆様の活動に必要な支援を行っていきたいと考えておりますので、今後とも大いに御活躍いただきますことを期待しております。

東日本大震災から4年を迎えようとしています。本県が「創造的な復興」を成し遂げ、「生まれてよかった、育ってよかった、住んでよかった」と県民の皆様が実感できるよう、県政運営の先頭に立って、前向きに、そして明るく、共に進んでまいりたいと考えておりますので、より一層の御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

もういいかい 火を消すまでは まあただよ (平成26年度全国統一防火標語)

全国表彰 受賞の お知らせ (敬称略)

平成26年 2月 第66回日本消防協会定例表彰受賞

- ・優良婦人消防隊 仙台市宮城野地区婦人消防隊
- ・優良婦人消防隊員 櫻井よしみ (岩沼市婦人消防隊 隊長)
佐藤 トシ (村田町婦人消防隊 隊長)

平成26年 7月 平成26年度消防功労者総務大臣表彰受賞

後藤 重子 (宮城県婦人防火クラブ連絡協議会 会長)

広告

～県民の安全・安心な暮らしを支えて～

消防用設備等の適正な点検により安全・安心な毎日を支えます

宮城県と災害時における応援協力に関する協定の締結をしています。

- ・公共施設の消防用設備等の緊急点検
- ・要請により消防用設備等の応急復旧の為に技術者を派遣
- ・緊急避難施設への簡易トイレ、消火器などの提供
- ・協会会員の所有する給水車等、機材とオペレーターの提供



一般社団法人宮城県消防設備協会

会長 井上 恭司

〒980-0014 仙台市青葉区本町 3-5-22 電話 022-223-3650

全国統一ラベル

消防用設備等の適正点検の証!!



消火器以外の消防設備等用



消火器用

宮城県消防設備協会

検索



「若い世代へつなぐ」～私たちの想い～

仙台市太白地区婦人防火クラブ連絡協議会

会 長 高 橋 理 恵

私たちの住む太白区は、仙台市の南西部に位置し、名取川に沿って太平洋から山形県境まで東西に帯状に広がった形状をしており、平野部とその背後の都市型農地が広がる中田地域、市南部の副都心で新しいまちづくりが進められている「あすと長町」地区、八木山等の大規模住宅団地の連なる丘陵地域、太白山周辺の豊かな自然環境に恵まれた生出地域、そして秋保温泉や二口溪谷を有する秋保地域からなっています。このため、当地区の7つの支部では、その地域特性に応じて、大規模店舗での防火キャンペーンから森林火災防止まで幅広い活動を行っております。今回はこうした活動のうち、代表的なものを2つほどご紹介したいと思います。

はじめに、名取市婦人防火クラブさんとの交流についてご紹介いたします。太白区の南側は大部分が名取市と隣接しているため、地域特性もさることながら、災害時の対応からクラブ活動に関する課題までも共通しております。こうしたことから、当地区では、平成25年度に名取市婦人防火クラブさんと意見交換会を行ったところ、活動上の問題点や考え方などについて、予定時間をオーバーし、かなり深いところまで話し合われました。このようなことから、互いの関係をさらに深めるため、平成26年度も引き続き交流を行うこととなり、「名取市婦人防火推進大会」の視察と併せて行いましたが、今回も、大会の運営方法も含め大変良い勉強をさせていただきました。



次に、当地区の活動として特に力を入れている幼年消防クラブ防火防災教室についてご紹介いたします。

この教室の中で特に紹介したいのが、「ぼうさいダック」というカードを使ったゲームです。これが、非常に好評で、私たちも毎年大変楽しみにしながら行っております。

「ぼうさいダック」は、内閣府（防災）が紹介しているもので、地震や台風などの時、子供自ら身を守る行動ができるようにと開発されたものです。災害時の行動を身近な動物に置き換えて楽しく学ぶというもので、例えば、地震が描かれたカードの場合には、裏側にダック（アヒル）が頭を両手で押さえて、姿勢を低くするポーズが描かれています。こうしたカードは全部で12種類ありますが、自然災害だけでなく蜂に追われた時や知らない人（誘拐）に遭遇した時などのバージョンもあり、掛け声とともにその時とるべき行動を反射的に身に着けさせるものです。さらに、クラブ員にアヒルとオオカミの着ぐるみを着せて登場させ、子供たちに興味を持ってもらうよう工夫しております。

ですが、実際は子供たち以上に私たちが楽しませていただいております。1時間ほどの指導もあっという間に過ぎてしまいます。そして、防火防災教室終了後も子供たちがポーズを復習している様子を見たり、帰宅後には自分が覚えたポーズを家族に教えているという話を伺ったりすると、何よりも嬉しく思い、次への活力に繋がります。

今年度は8施設約650名に指導しましたが、最近ではこの教室の話を聞いた小学校や児童館からも依頼が来るようになりました。

徐々にですが防火防災教室の輪が広がってきているのは大変喜ばしいことであり、今後も私たちの地区では、小さな子供のうちから「自分の命は自分で守る」をスローガンに活動していきたいと思っております。





「石巻地区婦人防災活動連絡会の活動」

石巻地区婦人防災活動連絡会

会 長 亀 山 いつ子

石巻地区婦人防災活動連絡会は石巻市、東松島市の各地区において結成されている7つの婦人防火クラブで構成され、クラブ員約1,000名で各地区の防火に取り組んでいます。

石巻地区では東日本大震災で約6千名の方々が犠牲となり当地区が最大の被災地と呼ばれるゆえんとなっています。

巨大地震による津波は当地区を襲い沿岸部の街区・集落は壊滅しました。私たちの活動のベースとなっていた地域コミュニティは崩壊、沿岸部だけでなく内陸部の住民も含め、これまでの生活を見つめ直す必要に迫られた災害となりました。

そのような地域事情であることから、私たちの活動は震災を切り離すことはできないものとなっています。

活動の一つとして仮設住宅の火災予防が挙げられます。震災から3年半以上が経った現在においても、石巻市で6,000戸に13,500人、東松島市で1,200戸に2,900人、女川町で1,000戸に2,400人、合計すると8,200戸に18,800人もの方々が仮設住宅での不便な生活を余儀なくされています。

仮設住宅は長屋形式であること、隣接する他棟との間隔も狭いことから火災の拡大危険が高く、また収納スペースが狭いため室内に物があふれていることからいったん火災になると人命危険が高いと言われています。

仮設住宅にお住まいの方々というのは、命以外は全て失った方々で、不自由な生活を送りながら必死に生活再建に向け頑張っています。このため婦人防火クラブでは、生活の再建を火事が妨げになることは絶対にあってはいけない、また、津波から助かった命を火災で失うことは許さない、という共通認識のもと各地区で様々な防火啓発活動を展開しています。

加えて従来から実施してきた行事などの再活動にも取り組んでいます。このことは、新たにコミュニティを構築することにもつながることに加え、『私たちの家庭から火事を出さない』という婦人防火クラブの原点を見つめ返すこととなり、さらなる地域への貢献に努めています。

災害の教訓を伝える活動にも重点を置いています。震災以降、津波被害を受けなかった地域の婦人防火クラブが視察研修に見えられるようになりました。研修では震災時の婦人防火クラブの活動を説明いたしますと聞かれている方は目に涙を浮かべて聞かれています。



震災当時のことを振り返ることは決してやさしいことではなく、むしろつらいことなのですが、悲劇を繰り返さないためにこれも婦人防火クラブ員の使命と考え伝え続けていきたいと考えています。





「巨理地区婦人防火クラブの活動と震災後の取組み」

巨理地区婦人防火クラブ連合会

会 長 菅 生 和 子

私達の住む巨理郡は宮城県の南東部に位置し、西を阿武隈高地、東を太平洋の黒潮、北を阿武隈川に囲まれ、その中心部は、肥沃な平野が広がり、特に農産物（苺・果樹）が有名で、気候温暖な地域となっております。

当連合会は、巨理・山元の2町で巨理地区婦人防火クラブが組織されております。昭和47年に結成され、42年目を迎えた現在76クラブ、11,187名の会員で構成されており、震災によりクラブ数が減少しましたが、引き続き全戸加入を目標に活動しているところです。

活動は種々ありますが、主なものとして、名取市・岩沼市・巨理町・山元町の2市2町で開催する、防火のつどい、水防訓練、春季・秋季火災予防運動巡回広報、移動研修会等があげられます。

今年度、巨理町では、9月1日の「防災の日」を控えた8月31日に「9・1総合防災訓練」が宮城県と巨理町の主催により開催され、地域住民の方々を合わせて約1,000人が訓練に参加しました。

ヘリが上空から被害状況を確認する訓練から始まり、倒壊物からの救出訓練、また、大規模な林野火災を想定した送水訓練など全26項目の訓練が実施されました。

私達婦人防火クラブも炊き出し訓練に参加しました。参加者はかっぱう着姿で、役割分担に従って取りかかり、限られた時間の中ではありましたが、素早い動きで互いに協力しながら、無事終わることができました。

この日の訓練は、町民皆が積極的に取り組み相互の連携も確認できたのではないかと思います。

有意義なすばらしい訓練でした。



さて、東日本大震災では、巨理地区は沿岸部を中心に甚大な被害を受けました。自衛隊、ボランティアの方々、そして全国から多くの支援をいただいたこともあり、現在、住民の多くは徐々にもとの生活を取り戻しつつあり、復旧・復興へと向っております。

また、あの震災以来、隣り近所や地域の仲間との結びつきをより強く意識するようになったという声を聞きます。その意識を絶やさないためにも日頃の訓練が大変重要だと思います。最近では全国各地でも防災訓練が行われておりますが、災害発生時には「自分の身は自分で守る」「相互に助け合う」という意識を持つためにも、地域で行われる訓練には積極的に参加するのがとても重要と考えます。ですが、もし、参加できない場合は家族で防災について話し合うことも訓練の一つだと思います。

これからも様々な訓練を通して、安心で安全な巨理地区を目指して、防火・防災について「備えることの大切さ」を、私達婦人防火クラブ員が一丸となって取り組み、活動してまいりたいと思います。



取り付けしていますか？ 設置は義務ですよ！ 住宅用火災警報器

～あなたの「命」と「財産」を守るため『条例に適合した設置』を行いましょ～



平成26年6月1日時点の県内の住宅用火災警報器の設置状況等調査の結果は次のとおりでした。

設置率 88.3% (全国79.6%) **全国3位**

条例適合率 65.0% (全国66.9%) **全国31位**

前回までは、全国的にも調査方法がまちまちで、総務省消防庁も「推計」という表現で公表していましたが、今回から調査方法が全国一律となり、より確からしい結果となりました。

本県の「推計設置率」は、平成20年の完全義務化以降、常に全国上位を保ってきましたが、一番肝心の「条例適合率」が全国

平均以下であったという事実が今回の調査で判明し、残念な結果となってしまいました。

本県内の条例では、「寝室」と「階段室」に加え日常的に火を使う「台所」も加えられており、他の多くの府県より1箇所多くなっていますが、これは、住民の皆さんの「命」と「財産」をより守りたいと考えてのことです。

もし、婦人防火クラブ員のみなさんで、まだ条例に適合されていないという方は、速やかな設置をお願いします。

宮城県婦人防火クラブ連絡協議会といたしましても「住警器見回り作戦」をより強力に実施していきたいと考えておりますので、こちらへの協力もよろしくをお願いします。

《おさらい》「住警器」どこに何を取り付けの？



① 寝室 煙式を使用

就寝に使用する部屋の天井又は壁面に設置します。

② 階段 煙式を使用

就寝に使用する部屋がある階の踊り場の天井又は壁面に設置します。※避難階（1階などに容易に避難できる階）の階段は除きます。

③ 台所 熱式の設置が有効

台所の天井又は壁面に設置します。

…でも、取り付けただけでは「ダメよ～ダメダメ！」
日頃のメンテナンスが重要なんです！（次のページも御覧ください。）

広告

東日本大震災から約4年を経過しようとしております。

なお、復興のため努力してまいります。

今後とも安全・安心なLPガスをご利用いただきますよう宜しくお願い申し上げます。



◆地震が起きた時の心構え◆

地震が発生したら、まず第一にご自身やご家族の安全を確保することが大切です。日頃から、ご家庭にて有事の際に取るべき行動をご家族と確認しておきましょう。

心構え その1

自分の身を守りましょう

まず、身の安全を確保して下さい。(玄関や勝手口の扉、窓などを開けて逃げ道を確認しましょう。)



心構え その3

巨大地震後にガスを使用する時には

- 自宅のLPガスボンベ等が倒れていないことを確認して下さい。
- 地震発生時(震度5程度以上)、ガスを使用していた場合はマイコンメーターが自動的にガスを遮断していることがあります。
- この場合、ご自身でマイコンメーターの復帰操作※を行えば、ガスがご使用になります。日頃から、販売店に確認しておくで役立ちますね。

※右記「マイコンメーターの復帰方法」をご参照下さい。



心構え その2

火の始末をしましょう

器具栓、ガス栓及び容器バルブを閉めて下さい。

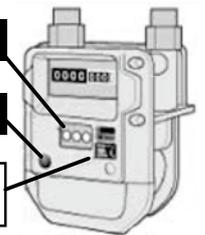


マイコンメーターの復帰方法

表示ランプ

復帰ボタン

検定有効期限ステッカー



すべてのガス栓・器具栓が「閉まっていること」を確認してください。マイコンメーターの[復帰ボタン]のキャップを外し、ボタンをしっかり押して[表示ランプ]が点灯したら手を離してください。1分後、ランプの点滅が消えていれば、ガスは安全にご使用出来ます。

※この方法でガスが使用出来ない場合は、販売店に連絡して下さい。

●LPガスを安全に使用するため、又、LPガスが使用出来なくなった時に備え、LPガス販売店の緊急連絡先「電話番号」を確認しておきましょう。

【一般社団法人 宮城県LPガス協会】 〒980-0014 仙台市青葉区本町 3-5-22 TEL.022-262-0321

住宅用火災警報器

取り付けただけではダメ！正しく機能させるには日頃のメンテナンスが大切なんです！

点検

定期的に作動確認をしましょう！

定期的にボタンを押す又はひもを引いて作動確認をし、警報音を確認しましょう。
音が鳴らないときは、「電池切れ」か「機器の故障」が考えられます。取扱説明書で確認を！

掃除

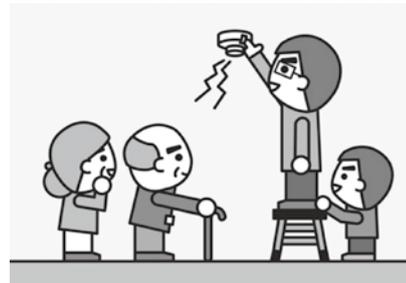
定期的にお手入れをしましょう！

ホコリや虫、クモの巣などの汚れがつくと感知しにくくなることも…！
汚れが付着した場合は、家庭用中性洗剤を浸して十分絞った布で外観の汚れを軽く拭き取りましょう。
※機種によっては、お掃除の方法が異なりますので、取扱説明書を確認してください。

交換

最大10年を目安に交換を！

古くなると電子部品の寿命や電池切れなどで、火災を感知しなくなることがあるため、とても危険です。
点検や電池交換の際に、本体の交換時期を確認し、計画的な交換をおすすめします。
※機器や電池の廃棄方法は、お住まいの市町村のルールに従ってください。



「いざ」というときに住警器がきちんと動くよう、日頃から点検とお手入れをしておきましょう！

広告



冷却効果のある液体薬剤が確実に消火します



周囲を汚さず使用後もお掃除が簡単です

消火器リサイクルシール

商品に貼付されています
リサイクル制度のもと
廃棄処分が可能です

見本



住宅の様々な火災に対応
安心・安全な液体の消火器



住宅防火安心マーク



全4色 高さ 376mm 総重量 2.2kg 有効期限 5年

お酢からできた消火器
キッチンアイ

* 商品お問い合わせ先
団体購入のご相談は

宮城県仙台市宮城野区萩野町 3-8-55
モリタ宮田工業株式会社

担当：加藤・及川

電話番号：022-238-4771
FAX：022-238-4773